

名芸大生 熱込めた表現

名古屋芸術大の卒業・修了制作展が、北名古屋市徳重の同大西キャンパスで開かれている。卒業を控えた芸術学科美術、デザイン、芸術教養の三領域の四年生と大学院二年生約二百四十人の作品がキャンパス全体に飾られている。二十八日まで。(岩井里恵)

240人の卒業・修了制作展



鳥の目線で道路に散乱するごみを題材に描いた横五段、縦三段ほどの絵画や、着物をキャンディーや綿あめの柄に染めたテキスタイルなど多彩な作品が、キャンパス内の至るところに並ぶ。

美術領域の有賀まなみさん(二)は「漂着するボレロ」と題し、生命の起源を表現したインスタレーション(空間芸術)を出展。中央に丸く配置した砂の上に、海で実際の波を撮影した映像を投影し、ラベルのバレエ音楽「ボレロ」を流している。周囲には、海や山で拾い集めた廃材で制作したオブジェを並べた。「見る人によって、太古の昔にも、ずっと先の未来の姿にも見える。時間を超えた幅を感じてほしい」と話した。

同領域の金里珉さん(二)は「生徒同士が刺激を受けて制作した熱のある作品が多いので、ぜひ楽しんで」と呼び掛けた。

生命の起源を表現したインスタレーション―北名古屋市徳重の名古屋芸術大西キャンパスで